

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500782		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	八幡園グループホーム		
所在地	三重県津市津興2947番地		
自己評価作成日	平成26年11月21日	評価結果市町提出日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470500782-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470500782-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 12 月 09 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と一緒にゆったりとしたくつろぎの時間の中に回想法を取り入れた会話や歌を毎日行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市東部の市街地に同一建物の1階がデイサービスセンター、2階がグループホーム、敷地内には津中部東地域包括支援センターがある。母体の法人は市内、県内に特養や老健ほか数多くの介護事業所を展開している。グループホームは開所して12年が経つ。現在は101歳になる方を筆頭に、9人の女性ばかりの利用者が落ち着いた雰囲気の中で生活している。本年4月に管理者、介護支援専門員が変わり、互いに協力し、助け合い両輪で職務を果たしている。本年8月に県下初の特別警戒警報が発令され、地元自治会長から独居老人の一時避難場所として受け入れの要請があり受け入れをし、地域貢献にも尽力している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員がグループホーム独自の理念を共有して実践している。	理念は「あきらめない介護をめざす」ことをかけ、利用者ができることを見出し、できることから張り合いや生きる喜びをもってもらうように常に心掛けて、職員にもその都度、問いかけ、職員自らが気づくように示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会して地域の行事や八幡園サロンの参加でボランティアさんとの交流を行っている。	地域で開催される夏祭りには、店舗前を借り、見物に出かけている。また、地区で開催される「サロン」に、当事業所の場所を提供して、婦人会の方たちとの交流を行っている。今夏、県下初の特別警戒警報発令時に、自治会長の要請を受け地域の一時避難場所として協力した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の立地と建物の広さを有効利用して頂けるように常に利用の促しの声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議出席者からの意見や提案等を参考にし、サービスへ活かすようにしている。相談の場としてアドバイス等も行えるようにしている。	自治会長はじめ行政、系列の包括、家族等々の参加を得ている。今までは近くの地藏堂の周りに花を植えて世話をしていたが、利用者の重度化が進行して難しくなった旨を話したところ、自治会長から今後は自治会でやると理解を得て協力してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場はもとより、市役所へ出かけた際は職員と情報交換できる関係を築けるように常に試みている。	行政の担当者にはわからないことなどいつでも聞ける関係である。介護保険関係の手続きなどには介護支援専門員が出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしないケアについての掲示物を目の付く場所に掲示して、職員の自覚を促す。	拘束については、気づいた時々には注意し、話しをしている。マニュアルは、わかりやすい場所に置いていつでも見れるようにしている。	マニュアルや事例などをもとに、職員研修を実施するよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でお互いに見過ごす事がないように常に注意を払っている。専門誌等も活用して各自学習出来るように図り、スタッフ会議等で意見交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門誌等での学習、専門職からの聞き取りが得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得されるまで書面や口頭で十分な説明を行い、疑問点等には納得されるまで対応を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対して常に意見を言いやすい雰囲気作りを心がけている。意見を伺える機会には傾聴し、それらをもとに反映するようにしている。	今春、家族会を開催、利用者の介護度が高くなってきており、今まで出来ていた外出も困難になってきた為、代替案を示し、理解を得た。調査日に、面会に来られた家族の方と、昼食時に話す機会があり、「大変よくしてもらっている」と心からの感謝の声が聴けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や申し送りでの意見や提案を出せるようにしている。気がついた事など常に業務日誌等に記録して検討している。	業務日誌の特記事項欄に気付いたことを記録している。申し送りや会議などでも随時話し合いが持たれて、改善すべきことはすぐに実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意分野で力を発揮できるように全体像の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会に職員が参加してスキルアップできるように行っている。資格試験には受験料の援助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会等の研修に参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への聞き取りはもとより、家族や担当ケアマネ・ケースワーカー・主治医等からの聞き取りを行って理解を深めることで早く関係が作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間を掛けて対話を行う。要望等言いやすい雰囲気づくりを行い、信頼と安心がえられるに相談等にも充分応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で実際の状況を見て、早急に必要なサービスとそうでないものを判別して流動的なとらえ方で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯・食事作り・買い物・草むしり・掃除等の出来ることをする事で張り合いや楽しみを感じながら生活することで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向が理解でき、共にこちらの意向も伝えられるような関係づくりを行っている。現在、行事参加や受診の手伝い等もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の訪問が頻繁にあり、馴染みの場所への訪問が出来るよう家族の協力も仰ぎながら支援を行っている。	先般、故郷での法事があり、家族の協力のもと、日帰りで自宅に戻った方がいる。また、キリスト教信者の利用者のところへは、牧師さんや信者が訪ねてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが馴染みの関係・仲間として生活できるように関わりの機会や支えあいの機会を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に対しても要望等に応じて関わりを持ち復帰に向けての協力体制を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思い、生活歴や特性の把握に努め、満足できるような対応を心がけている。	利用開始時にセンター方式などを使い、生活歴など把握して、利用者に対応している。又、回想法を取り入れ、思いの把握に努めている。夜勤帯は、一人ひとりじっくりと本音の聞ける時間になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りを充分に行い、家族や担当ケアマネ・ケースワーカー・主治医等からの情報を集め、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランにもとづき、日課をもとに柔軟に生活できるに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	すべての職員と家族とが関係して介護計画を作成し、本人と家族の同意のもとに実施している。	職員が利用者に対して担当制になっており、管理者、介護支援専門員で検討し、デイサービスの看護師を交えてカンファレンスを実施し、3か月ごとに計画書が作られている。毎月、モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケースファイルに詳細を毎日記載して、職員が実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて、併設の施設の行事への参加や買い物・外出等も自由ね出来るよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や老人会の行事への参加に希望に応じて参加する機会を設け、関わりが持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医師への受診が出来るよう支援している。	定期検診は家族がしているが、緊急時はデイサービスの看護師に相談し、指示を仰いでいる。受診となれば、家族へ連絡をしてホームで支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理はもとより異常の際は迅速、適切に医療が受けられるに連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関との情報収集に努め、職員が情報の共有ができるように関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いの場を持ち、意向をくんでの介護が行えるように対応している。	利用開始時に重度化、看取りについてのホームの方針を説明するが、実際に重度化したら、「看取り、介護、医療の同意書」を交わしている。ホームでは医療行為はできないので、家族の判断でどうするか対応を決めていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修での訓練や事故報告書からの実際の例からの学びをもとに実践力つくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域での協力体制も整いつつある。	併設のデイサービスと合同での防災訓練を実施しており、地域での防災訓練には職員が参加をしている。備蓄もある。現状では指定避難所への移動は困難と考えている。今夏、特別警戒警報時に、地域の独居の方の一時避難場所として提供した。	自然災害が頻発している昨今、自治会、地域の方の参加も得た防災訓練の開催が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の能力に応じてその都度の声掛けを行いプライバシーの保護を行っている。	利用者は人生の先輩で目上の人としての尊厳を忘れないよういつも心がけている。トイレ・洗面台が各居室に設備され、居室のドアの向こう側にも障子の戸があり、プライバシーが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に職員は意識して利用者の意思決定の機会には決定が図れるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別プランをもとに個々のペースにもとずき無理なく支援できるように留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪については定期的に美容師に来てもらっており、衣服等も希望された時に買い物に付き添い支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの時は利用者様の食べたい物の聞き取りをしてメニューに取り入れたり、無理の無い程度の参加、協力をしていただいている。	献立は法人の管理栄養士が立て、デイサービスの厨房で作られる。日曜日には利用者の好みを聞きながらホームで作っている。月に1回、手作りおやつが楽しみでもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の各利用者の摂取量、水分量のチェックを行い把握が出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯洗浄剤の使用を行い、歯磨きが無理な方には口腔ティッシュや口腔ケアスポンジを使用して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子や時間での声掛けや誘導を行っている。日常の中でコミュニケーションを取り生活の質が高まる事で自立にむけたケアを行っている。	時間や態度、様子を見ながらトイレでの排泄を誘導している。各居室ごとにトイレが設備されているので、ゆっくりと排泄ができる。カーテンで仕切られているが、安全のため、椅子などを置いて配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し・食材等の配慮・運動・腹部マッサージを行いつつ排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週5回の入浴日を設けて機会を多くする事で入浴しやすい状況を作り、タイミングのよい声掛けで気分良く入浴できるようにしている。	浴槽が向かい合って2つ設備され、両方とも使い、仲のよい人同士が向かい合って入浴をしている。午後2時半～4時ごろが入浴タイムで、入浴剤を入れて温泉気分を味わい、歌をうたうなど楽しい時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を増やし夜間の安眠を整えると共に、気楽にごろ寝の出来る和室や数多くあるソファでゆったり安息できるように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、誤薬等ないように常に意識して支援できるようにしている。状況の変化に対応して服薬できるように看護との連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好に合わせて各利用者に対応を行っている。食事運び、新聞受けなどの役割をお願いしてやっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、全員での外出に困難がありますが、散歩・買い物は随時出掛けられる支援を行っています。	重度化が進み、外出困難な方も増えてきた。2階は周りがベランダになっており、プランターも置かれ、居室からでもベランダへ出て外の空気が吸える。外出の代わりに職員の工夫で、イチゴ狩りや花見をホームのリビングで実現した。近くの地蔵堂への散歩や買い物に出かける支援は継続している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方にはサイフを個人で持っていて買物に行かれる時は購入できる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望がある場合は必要に応じて連絡が取れるようにしている。年賀状等季節に応じて送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、季節感を常に感じられるように草花を飾り、行事の写真や作品の掲示を行っている。照明も落ち着く照度にして、居心地の良い温度管理にしています。	行事等の写真がたくさん壁に貼られ、間もなくクリスマス、一段ときれいに飾りつけされている。毎月、その時に応じた飾り物をして季節感を味わってもらえるよう工夫をしている。リビングでの座る席も利用者にあわせた配慮をしている。きれいに清掃が行き届いて不快な臭いは感じない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいくつも置いてあり一人でも複数でもくつろげるにしている。又、ごろ寝も出来るように畳の和室も設けてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の使用の制限は無く、活かせるものは自由に活かせるようにしている。	居室は、ドアとさらに障子の戸で仕切られ、「私らしい居室」が演出されている。家族の写真が飾られ、使い慣れた時計や飾り物などが持ち込まれて、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に目印を付けたり、手すりにテープを貼って見やすくし、居室までの歩行の手助けにしている。必要に応じて張り紙等をして安心して過ごせるようにしている。		